

ウィキペディア

# 江戸幕府

出典: フリー百科事典『ウィキペディア（Wikipedia）』

**江戸幕府**（えどばくふ）は、江戸時代の日本の武家政権。1603年に徳川家康が征夷大将軍に任官し、江戸（現・東京都）を本拠として創設した。その終末は、諸説あるが大政奉還が行われた1867年までとされる。

徳川氏が将軍職を世襲したことから**徳川幕府**（とくがわばくふ）ともいう。安土桃山時代とともに後期封建社会にあたる。

## 目次

**概要**

**幕藩体制**

**財政**

**大名**

**江戸幕府の役職**

大名役

旗本役

幕末に新設された主な役職

**江戸幕府の組織図**

**脚注**

**参考文献**

**関連項目**

## 概要

徳川家の当主が正二位内大臣兼右大将に叙任され、征夷大将軍に任じられて260余りの武家大名と主従関係を結び、彼らを統制するという制度は、1600年代後半までに確立された。その將軍の政府を「幕府」、臣従している大名家を「藩」、さらに両者が複合した権力の体制を

### 江戸幕府

The Tokugawa Shogunate

中央政府



徳川家家紋・徳川葵

#### 概要

**創設年** 1603年

**解散年** 1867年

**対象国**  日本

**政庁所在地** 武蔵国 江戸  
(現：東京都)

**代表** 征夷大将軍  
(徳川氏が世襲)

#### 機関

**大老** (臨時の最高職)

**老中** 側衆  
高家  
大目付  
町奉行（江戸）  
勘定奉行  
城代  
奉行（遠国奉行）等

**側用人** (將軍・老中間の取次役)

**若年寄** 書院番頭  
目付 等

**奏者番** (大名の取次役)

**寺社奉行** (三奉行の一)

**京都所司代** (京の警固、朝廷監視等)

「幕藩体制」と一般に呼んでいる。ただし、「幕府」及び「藩」の語は幕末期に広く使用され、現在も歴史用語として定着しているものの、江戸時代を通じて使用されていたわけではない。それまでは、将軍の政府は「公儀」「公辺」などと漠然と呼ばれていた<sup>[1]</sup>。

幕府の始期及び終期については諸説あるが、征夷大將軍の任官時期に着目する場合には、家康がはじめて将軍職に任じられた**1603年3月24日**（慶長8年2月12日）から、いわゆる王政復古の大号令によって15代将軍徳川慶喜の将軍職辞任が勅許され、併せて幕府の廃止が宣言された**1868年1月3日**（慶応3年12月9日）までとなる。終期には他にも**1867年11月9日**（慶応3年10月14日）に15代将軍徳川慶喜が大政奉還を行った時、**1868年5月3日**（慶応4年/明治元年4月11日）の江戸開城とする説もある。

徳川将軍家が実質的に日本を支配した、この**260年**あまりの期間を一般に「江戸時代」と呼ぶ。江戸幕府は日本の歴史上、鎌倉幕府及び室町幕府に続く武家政権である。

また、江戸幕府の統治下にあった江戸時代は江戸幕府による平和を意味するパクス・トクガワナ（Pax Tokugawana）（en>List of periods of regional peaceを参照）とも称される。

## 幕藩体制

幕府の支配体制は幕藩体制と呼ばれ、将軍の政府である幕府と、将軍と主従関係を結んだ大名の政府である藩で構成されていた。将軍は大名に対して朱印状を与えてその知行を保障し、大名は当該知行内において独自に統治を行う権限を一定程度有した。なお、「藩」の語が公称として用いられるようになったのは明治時代のことで、公文書では「領」「領分」、あるいは「領知」などが使用された。公称としての藩は、**1868年**（明治元年）に公布された政体書によって設けられ、**1871年**（明治4年）の廃藩置県によって廃止された。

江戸幕府の支配においては、将軍と大名の主従関係を確認するための軍役として、各藩大名に対して参勤交代や、築城・治水工事などの手伝普請が課せられた。

初代家康、3代家光、5代綱吉、8代吉宗、11代家斉など、親政を行ったとされる将軍も存在するが、基本的に政治の多くの部分は老中を初めとする幕閣に委ねられた。権力の集中を避けるため主要な役職は複数名が

**大坂城代**（大坂市政、西国大名監視等）

### 備考

1868年の王政復古の大号令により幕府が廃されたため、江戸幕府は日本最後の武家政権となった。

←  **豊臣政権**

 **日本国政府** →



江戸城天守



日光東照宮陽明門



初代将軍・徳川家康

配置され、一か月交代で政務を担当する月番制を導入し、重要な決定は合議を原則とした。常置の最高職である老中及び臨時に置かれる大老、その補佐役である若年寄は譜代大名から選任され、大目付・三奉行（寺社奉行・町奉行・勘定奉行）等の要職には譜代あるいは旗本が充てられて実務を担った。幕府組織は後期にはその全貌の把握が困難であるほど巨大化・複雑化し、幕末には老中の月番制を廃止して、国内事務・会計・外国・陸軍・海軍の各総裁を専務する等の改革が行われた。

幕府は「公儀」として国内全体の統治を行うとともに、自らも1大名として領分（天領・御領）を支配し、京都所司代、大坂城代、遠国奉行、郡代・代官などの地方官を設置した。

## 財政

---

初代将軍徳川家康の時期に、勘定奉行が取り仕切る勘定方が設置されたが財政は安定しておらず、赤字などによりしばしば幕政改革が行われた。

幕末の1866年（慶応2年）には既にイギリスのオリエンタル・バンクの支店が横浜に設立されていたと言われ、幕府は長州征伐のため、同年同銀行と600万ドルの借款契約を締結した<sup>[2]</sup>。

## 大名

---

*「近世大名」も参照*

大名は以下のように分類された。

- **親藩**：徳川氏の一族
- **譜代大名**：関ヶ原の戦い以前から徳川家に仕えていた大名家
- **外様大名**：関ヶ原の戦い以降から徳川家に仕え始めた大名家（関ヶ原の戦いで東軍として戦った豊臣系大名も含む）

この分類は、政権内の権力において大きな差となっていた。特に、幕府の要職に全て譜代大名をもって充てた事は、鎌倉幕府、室町幕府からの大きな転換であった。鎌倉・室町幕府においては、時によっては将軍家・執権すらしのぐほどの有力御家人・守護大名が要職に就いていた。また、豊臣政権末期の五大老制は、有力大名による集団指導体制であり、外様大名である徳川家康の政権篡奪を防ぐことができなかった。これに対して、江戸幕府では譜代大名が幕府の要職を独占していた。元々は豊臣政権時代に一大名に過ぎなかった徳川家康のさらに臣下であった譜代大名は、さほど有力ではない小大名が中心であり、徳川家以外の他の有力大名は、地方を統治する外様大名として中央政権の要職に就くことが無くなった。つまり、徳川将軍個人の独裁体制ではないものの、徳川家という枠組において独裁体制を敷いていたのである。またこのことにより、あまり政治に関与しなかった将軍であっても、幕閣の完全な傀儡になることはなく、政権の篡奪も未然に防止することが可能となった。

しかしながらこれは、親藩や有力外様大名が幕閣よりも「目上の立場」になる事を意味し（例えば井伊家は譜代大名筆頭であるが、外様大名筆頭の前田家や、御三家・御三卿よりは下の席次であった）、幕末期において問題点として噴出する事となった。当時の大老である井伊直弼は強権をもって反対者を弾圧したが、その報復である桜田門外の変に倒れ、以降の江戸幕府は諸大名の統制が困難になり、大政奉還及び江戸開城を迎える事となった。

## 江戸幕府の役職

---

### 大名役

御側御用取次はもともと高級旗本の役職だったが、拝命後ある程度の時を経てから大名に取り立てられる場合が多かった。

- 大老・大老格（幕府成立当初は大政参与も置かれたが後に大老と統一）
- 老中・老中格
- 側用人・御側御用取次

以上が幕政の首脳。このうち「幕閣」と呼ばれたのは大老・大老格と老中・老中格で、側用人・御側御用取次は時代や個人によってその権限に大きな差があった。

- 京都所司代
- 大坂城代
- 寺社奉行
- 若年寄
- 奏者番

### 旗本役

*「旗本#江戸幕府の旗本」も参照*

諸太夫役と布衣役を『天保年間諸役大概順』に拠って列記、これに支配関係と伺候席を参考として添えた。なお『諸役大概』に記載があるものの、それが役職であるか世襲職であるかが不明瞭なもの（林家が代々勤めた大学頭など）についてはこれを省いた。

- 高家（老中支配、雁間詰）
- 側衆（老中支配）
- 駿府城代（老中支配、雁間詰）
- 伏見奉行（老中支配、芙蓉間詰）
- 留守居（老中支配）
- 大番頭（老中支配、菊間詰）
- 書院番頭（若年寄支配、菊間詰）
- 小姓組番頭（若年寄支配、菊間詰）
- 御三卿家老（老中支配、芙蓉間詰）
- 大目付（老中支配、芙蓉間詰）
- 町奉行（老中支配、芙蓉間詰）
- 勘定奉行（老中支配、芙蓉間詰）
- 旗奉行（老中支配、菊間詰）

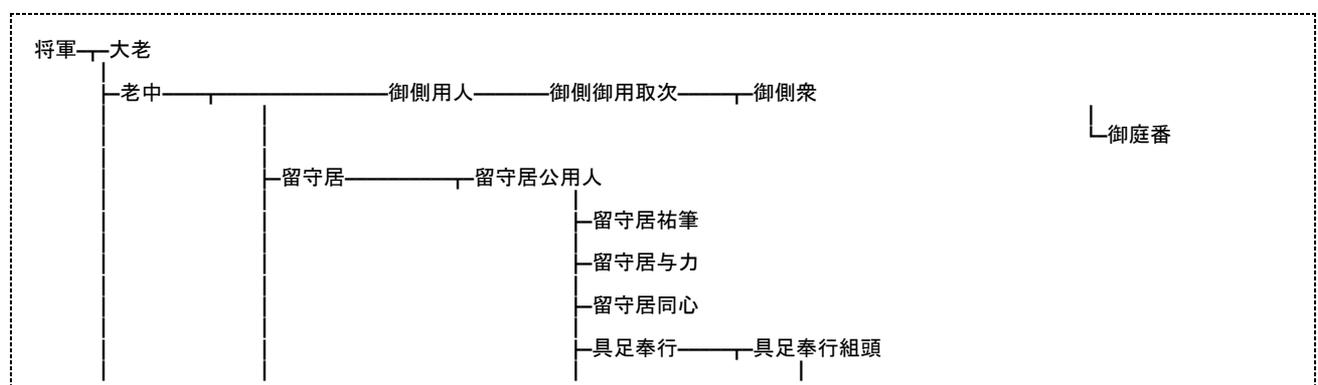
- 作事奉行（老中支配、芙蓉間詰）
- 普請奉行（老中支配、芙蓉間詰）
- 小普請奉行（若年寄支配、中之間詰）
- 甲府勤番支配（老中支配、芙蓉間詰）
- 長崎奉行（老中支配、芙蓉間詰）
- 浦賀奉行（老中支配、芙蓉間詰）
- 京都町奉行（老中支配、芙蓉間詰）
- 大坂町奉行（老中支配、芙蓉間詰）
- 駿府定番（老中支配、芙蓉間詰）
- 禁裏付（老中支配、芙蓉間詰）
- 仙洞付（老中支配、芙蓉間詰）
- 山田奉行（老中支配、芙蓉間詰）
- 日光奉行（老中支配、芙蓉間詰）
- 奈良奉行（老中支配、芙蓉間詰）
- 堺奉行（老中支配、芙蓉間詰）
- 駿府町奉行（老中支配、芙蓉間詰）
- 佐渡奉行（老中支配、芙蓉間詰）
- 新潟奉行（老中支配、芙蓉間詰）
- 羽田奉行（老中支配、芙蓉間詰）
- 西丸留守居（若年寄支配、中之間詰）
- 鉄砲百人組頭（若年寄支配、菊間詰）
- 鑓奉行（老中支配、菊間詰）
- 小普請組支配（老中支配、中之間詰）
- 新番頭（若年寄支配、中之間詰）
- 持弓頭・持筒頭（若年寄支配、菊間詰）
- 定火消役（若年寄支配、菊間詰）
- 小姓（若年寄支配）
- 中奥小姓（若年寄支配、山吹間詰）
- 大坂船手（老中支配、躰躰間詰）
- 留守居番（老中支配、中之間詰）
- 先手頭・弓頭・鉄砲頭（若年寄支配、躰躰間詰）
- 目付（若年寄支配、中之間詰）
- 使番（若年寄支配、菊間詰）
- 書院番組頭（若年寄支配、菊間詰）
- 小姓組組頭（若年寄支配、菊間詰）
- 駿府勤番組頭（駿府城代支配）
- 鉄砲方（若年寄支配、躰躰間詰）
- 西丸裏門番之頭（若年寄支配、躰躰間詰）
- 徒頭（若年寄支配、躰躰間詰）
- 小十人頭（若年寄支配、躰躰間詰）
- 小納戸（若年寄支配）
- 船手（若年寄支配、躰躰間詰）
- 二丸留守居（若年寄支配、焚火間詰）
- 納戸頭（若年寄支配、焚火間詰）
- 腰物奉行（若年寄支配、焚火間詰）
- 鷹匠頭（若年寄支配、焚火間詰）
- 勘定吟味役（老中支配、中之間詰）
- 奥右筆組頭（若年寄支配）
- 郡代（勘定奉行支配、躰躰間詰）

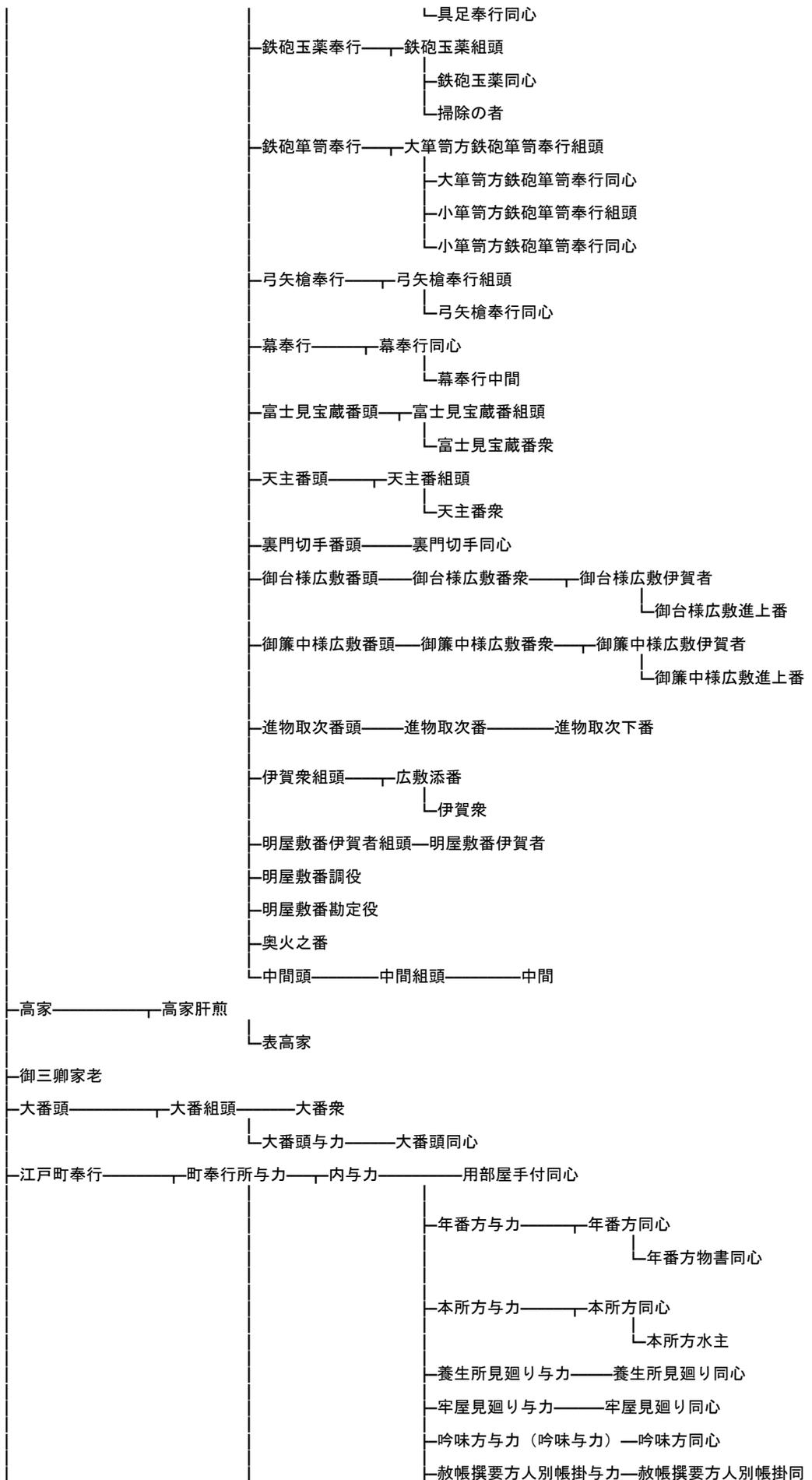
## 幕末に新設された主な役職

- 将軍後見職
- 政事総裁職
  - 神奈川奉行

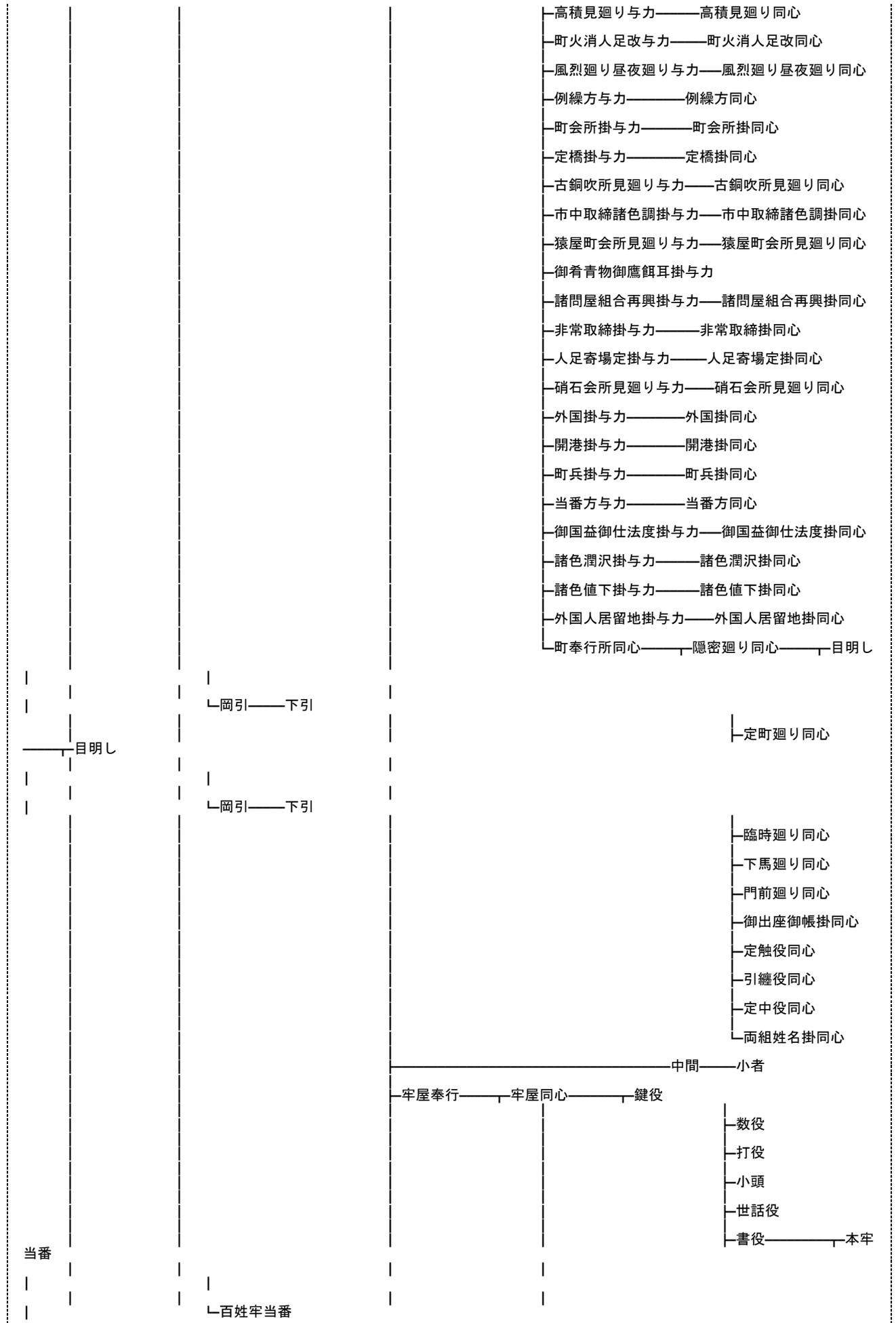
- 兵庫奉行
- 山陵奉行
- 国内事務総裁職
- 外国事務総裁職
  - 外国惣奉行
    - 外国奉行
- 会計総裁職
- 京都守護職
  - 京都見廻役
- 軍事総裁職
  - 幕府海軍
    - 海軍総裁職
      - 海軍奉行
        - 軍艦奉行
  - 幕府陸軍
    - 陸軍総裁職
      - 陸軍奉行
        - 騎兵奉行
        - 歩兵奉行
        - 撤兵奉行
        - 銃隊奉行

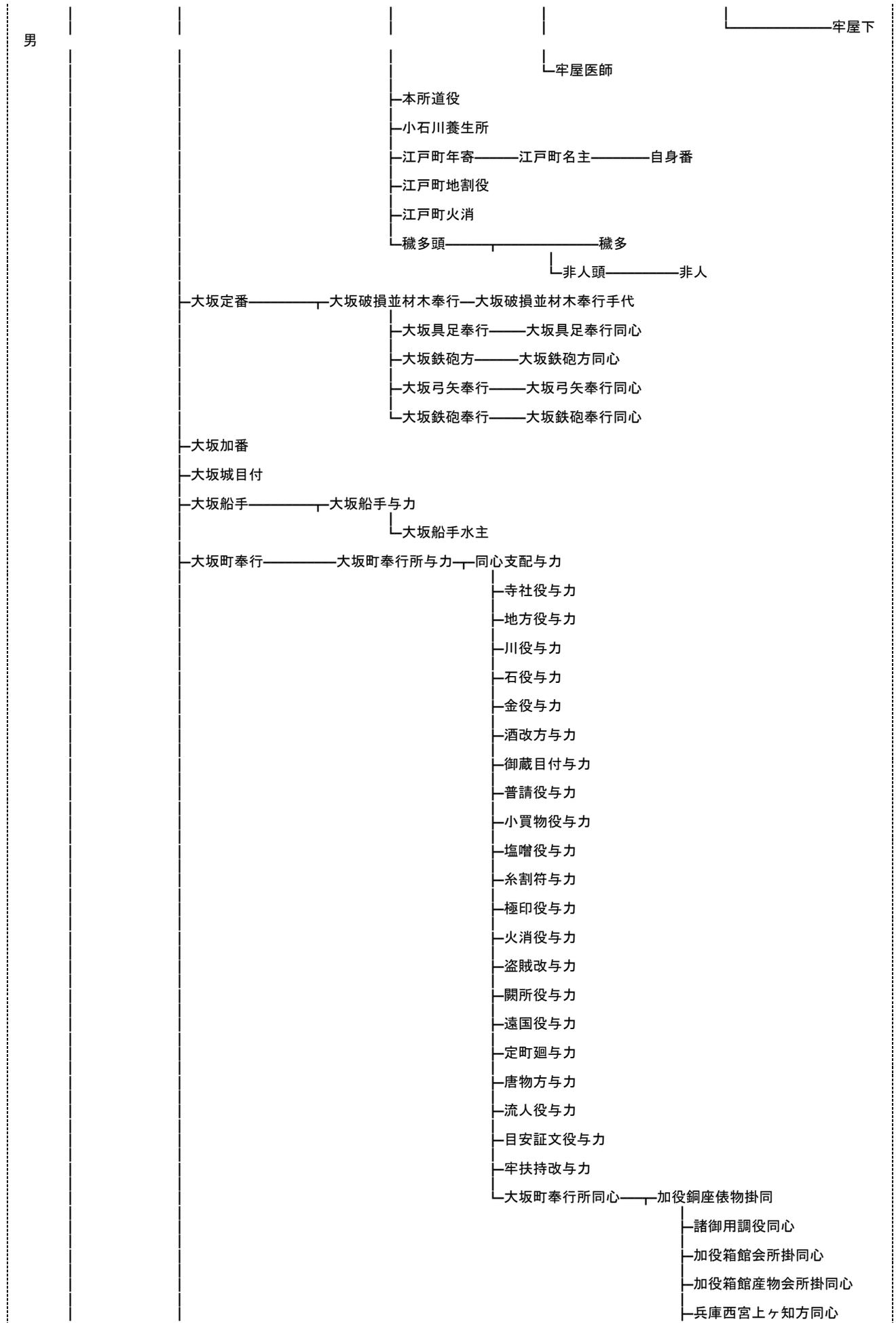
## 江戸幕府の組織図

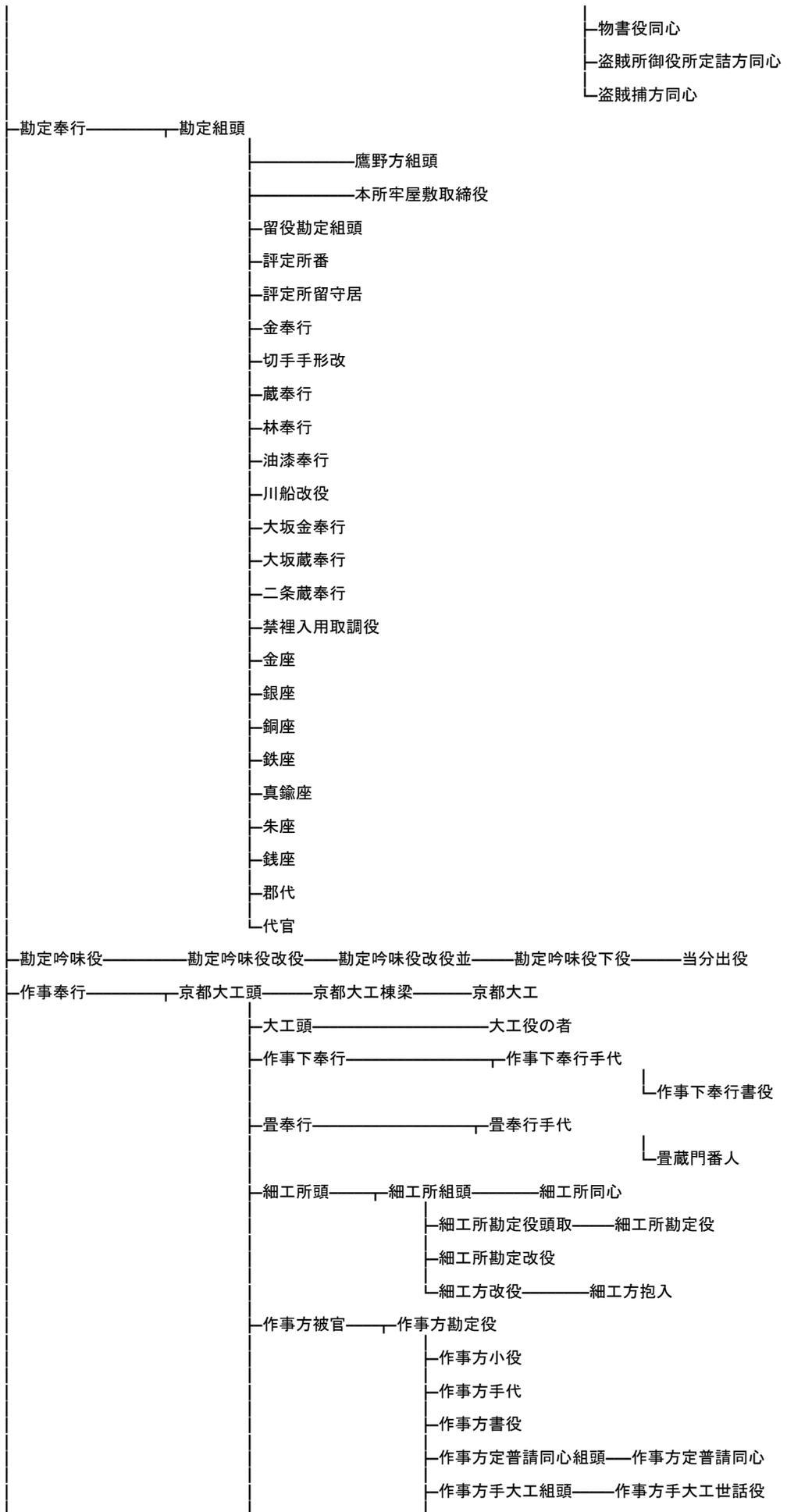




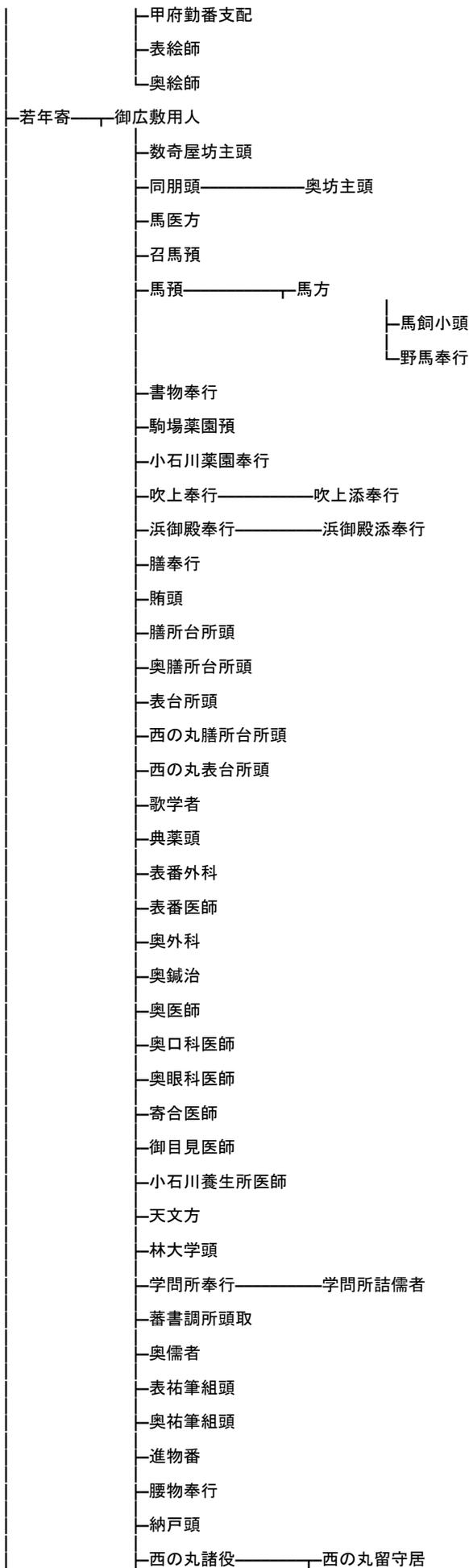
心

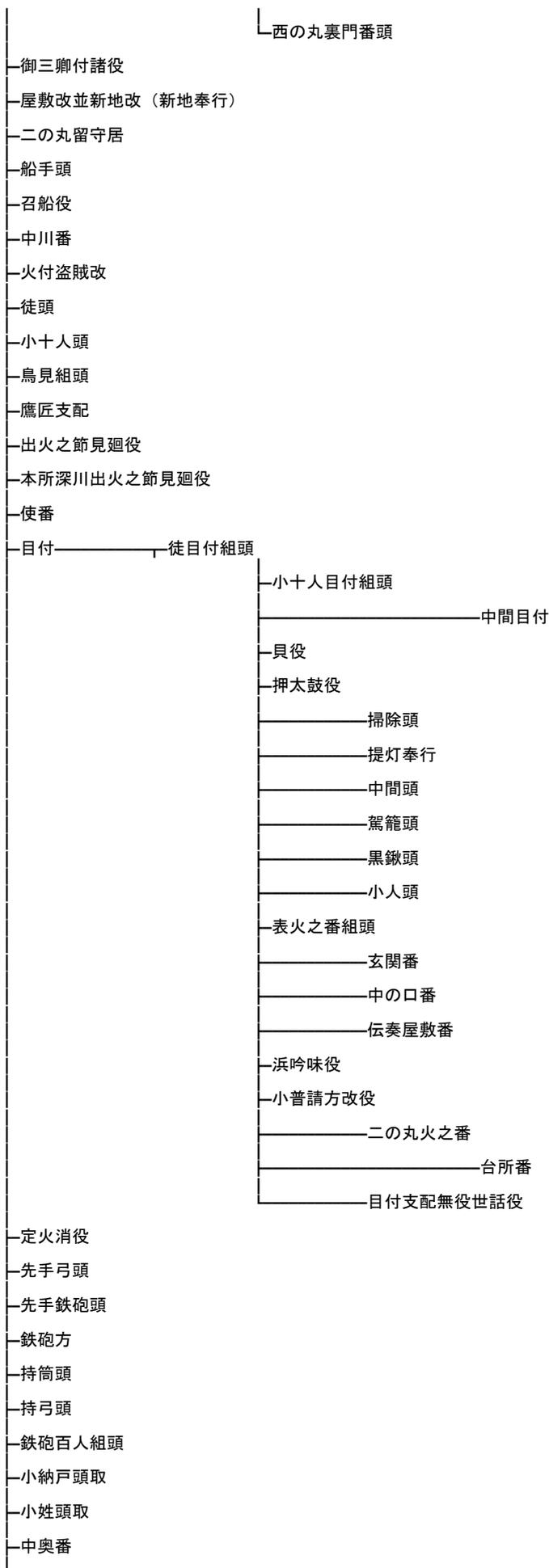


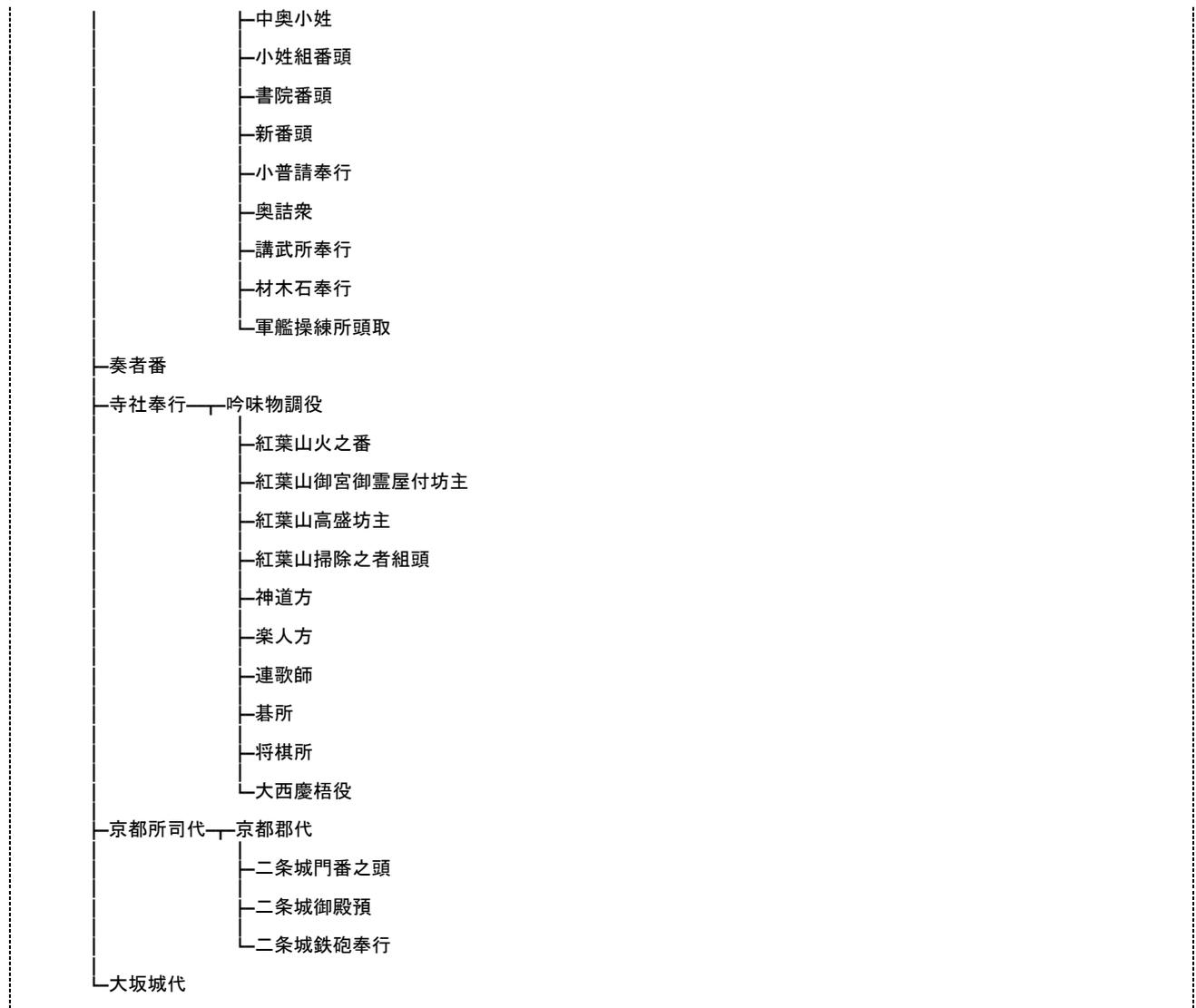












## 脚注

- ↑ 明治維新史学会 2011, pp. 3-5.
- ↑ 関山 1943, pp. 63.

## 参考文献



<ref>
この節には参考文献や外部リンクの一覧が含まれていますが、**脚注による参照が不十分であるため、情報源が依然不明確です**。適切な位置に脚注を追加して、記事の信頼性向上にご協力ください。（2019年9月）

### 書籍

- 北島正元『江戸幕府の権力構造』岩波書店、1964年。ASIN B000JAESEU (<https://www.amazon.co.jp/dp/B000JAESEU>)。
- 笹間良彦『江戸幕府役職集成』雄山閣出版、1999年11月、新装版。ISBN 978-4-639-00058-7。

- 関山直太郎『日本貨幣金融史研究 (<https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/1276489/40>)』新経済社、1943年。  
[doi:10.11501/1276489](https://doi.org/10.11501/1276489) (<https://doi.org/10.11501%2F1276489>)。
- 『徳川幕府事典』竹内誠編、東京堂出版、2003年7月1日。ISBN 978-4-490-10621-3。
- 「藤井讓治『家綱政権論』」『講座日本近世史4 元禄・享保期の政治と社会』松本四郎編、山田忠雄編、有斐閣、1980年1月。ISBN 978-4-6410-7094-3。
- 藤井讓治『江戸幕府老中制形成過程の研究』校倉書房〈歴史科学叢書〉、1990年1月1日。ISBN 978-4-7517-2020-2。
- 藤井讓治『幕藩領主の権力構造』岩波書店、2002年10月30日。ISBN 978-4-0002-4414-5。
- 藤野保『幕藩体制史の研究—権力構造の確立と展開』吉川弘文館、1961年。  
ASIN B000J9FGD8 (<https://www.amazon.co.jp/dp/B000J9FGD8>)。
- 『徳川幕閣のすべて』藤野保編、新人物往来社、1987年12月。ISBN 978-4-40401-469-6。
- 村川浩平『日本近世武家政権論』日本図書刊行会、近代文芸社、2000年6月。  
ISBN 978-4-8231-0528-9。
- 『講座明治維新2 幕末政治と社会変動』明治維新史学会、青山忠正 編著、有志舎、2011年5月21日。ISBN 978-4-9034-2642-6。
- 松平太郎『江戸時代制度の研究』武家制度研究会、1919年。

## 雑誌

- 『徳川幕閣のすべて』新人物往来社〈別冊歴史読本歴史ロマンシリーズ〉、1995年。  
ASIN B015FCCRY4 (<https://www.amazon.co.jp/dp/B015FCCRY4>)。

## 関連項目

---

- [江戸時代](#)
  - [幕藩体制](#)
  - [松平状](#)
  - [江戸城](#)
  - [大奥](#)
  - [徳川将軍一覧](#)
  - [徳川御三家](#)
  - [御三卿](#)
-

「<https://ja.wikipedia.org/w/index.php?title=江戸幕府&oldid=76667023>」から取得

---

**最終更新 2020年3月19日 (木) 08:57**（日時は個人設定で未設定ならばUTC）。

テキストはクリエイティブ・コモンズ 表示-継承ライセンスの下で利用可能です。追加の条件が適用される場合があります。詳細は[利用規約](#)を参照してください。